

三井住友銀行 (2018 年グリーンボンド)

契約の種類： アニュアルレビュー

日付： 2020 年 7 月 22 日

担当チーム： Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343
Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

はじめに

2018 年 12 月、三井住友銀行 (SMBC) は再生可能エネルギー、エネルギー効率、グリーンビルディング、クリーンな運輸、汚染の防止と管理に関連するプロジェクトのファイナンス又はリファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行しました (以下、「グリーンボンド」)。2020 年 5 月、SMBC はサステナリティクスに対して、グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトを審査し、これらのプロジェクトが三井住友フィナンシャル・グループ/三井住友銀行グリーンボンドフレームワーク 2018 (以下、「グリーンボンドフレームワーク」)¹ で規定された資金使途のクライテリアやレポートングクライテリアを満たしているかの評価を委託しました。本レビューは、2019 年 5 月に行ったサステナリティクスによる SMBC のグリーンボンドに対するレビューに続き、2 回目のレビューとなります。

評価基準

サステナリティクスは以下の要件について、2020 年 3 月 31 日時点で調達資金の充当を受けたプロジェクト及び資産を評価しました。

1. グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. グリーンボンドフレームワークで規定された各資金使途クライテリアに対し少なくとも一つの主要業績評価指標 (KPI) に関する報告

表 1 に調達資金の使途と適格クライテリア、表 2 に関連する KPI を示します。

表 1：調達資金の使途および適格クライテリア

SMBC はグリーンボンドによる調達資金を全部 (又は一部)、既存・新規の環境関連プロジェクト (以下、「適格グリーンプロジェクト」) のファイナンスに充当すると表明しています。適格グリーンプロジェクトには、下表に示すカテゴリーの 1 つ以上に該当するプロジェクトが含まれます。

調達資金の使途	適格クライテリア
(A) 再生可能エネルギー	太陽光、風力、地熱、バイオマス (持続可能な原料又は廃棄物に限る)、及び小規模水力 (発電容量が 25MW 以下) の再生可能エネルギーの発電又は送電施設の開発、建設、及び運営事業。
(B) エネルギー効率	LED 照明や高効率 HVAC (暖房、換気及び空調)、建築断熱材、エネルギー使用量のコントロールシステムを含む (ただし、これらに限らない) 省エネ設備に関する事業。重複を避けるため、以下のカテゴリー (C) に該当するプロジェクトは、カテゴリー (B) から除外される。
(C) グリーンビルディング	「LEED (エネルギーと環境デザインのリーダーシップ)」、「BREEAM (英国建築研究所建築物性能評価制度)」、「CASBEE 不動産評価認証 (建築環境総合性能評価システム)」などの地域、国家又は国際的に認知されたグリーンビルディングの第三者認証において、「LEED Gold」、「BREEAM Excellent」、「CASBEE A Level」以上の評価を得た新たな建物の建設又は既存建物の修繕に係る事業。

¹ 三井住友フィナンシャル・グループ/三井住友銀行グリーンボンドフレームワーク (2018) の概要については、こちらをご参照ください：
https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2018/12/SMFG_SMBC_Green-Bond-Framework-Overview_SPO_Japanese_Final.pdf

(D) クリーンな運輸	クリーンエネルギー車（電気自動車及びそれを支えるインフラを含む）への移行、及び公共交通機関（鉄道輸送、自転車、その他の非自動車輸送の改善を含む）の開発、運営及び更新を支援する事業。
(E) 汚染の防止と管理	廃棄物のリサイクルや廃棄物処理発電等の施設の開発、建設および運営に関連する事業。

表 2：主要業績評価指標 (KPI)

主要業績評価指標 (KPI)	
インパクト・レポート	<p>SMBC は、融資を行った適格グリーンプロジェクト（調達資金の用途で規定）の環境への影響に関する情報と評価を専用ウェブサイトにて年 1 回掲載します。融資を行った適格グリーンプロジェクトの環境への影響は、レポートの際に全体で集計・計算されます。SMBC はプロジェクトのカテゴリに応じて、次の指標に関するレポートを約束しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CO₂ 排出量 (t 換算) • エネルギー消費の削減量 (kwh) • 廃棄物のリサイクル量 (t)

発行体の責任

SMBC は、プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報および文書を提供する責任を負います。

独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス (ESG) とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、SMBC のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本委託契約の一環として、同社のグリーンボンドフレームワークとの適合性の確認のため、SMBC の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、対象プロジェクトに関して SMBC から提示された情報と事実に依拠しています。SMBC が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会 (Sustainability Bonds Review Committee) が監督を行いました。

結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果、²すべての重要な側面において、SMBC のグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の用途及びレポートングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。2019 年 3 月に SMBC はサステナリティクスに対し、グリーンボンドの調達資金が全額充当されたことを開示したものの、2020 年 5 月に SMBC はサステナリティクスに対し、グリーンボンドの調達資金がグリーンボンドフ

² サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

レームワークの適格クライテリアに沿って、再生可能エネルギープロジェクトに再充当され、2020年3月31日時点で充当が完了したことを確認しています。

調査結果の詳細

表3：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金使途クライテリア	2020年3月31日時点でグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、グリーンボンドフレームワーク及び上の表1に示されている資金使途クライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは資金使途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポートニングクライテリア	2020年3月31日時点でグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがグリーンボンドフレームワーク及び上の表2に示されているKPIと適合する形で報告されたかを検証。報告されたKPIの一覧は参考資料2を参照。	審査したすべてのプロジェクトは関連するKPIについて調達資金の使途のクライテリア毎に報告されていました。	該当なし

参考資料 1 : 審査対象のプロジェクトカテゴリー一覧

#	プロジェクトカテゴリーの領域	プロジェクトカテゴリー	プロジェクト数	エクセーター原則カテゴリー	契約日	エネルギー源	カテゴリー内の全プロジェクトが資金使途クライテリアに適合
1	再生可能エネルギー	太陽光	4	カテゴリー B : 4 件	過去 24 カ月以内 : 4 件	該当なし	適合
2	再生可能エネルギー	風力	4	カテゴリー B : 4 件	過去 24 カ月以内 : 4 件	該当なし	適合
3	再生可能エネルギー	バイオマス	1	カテゴリー B : 1 件	過去 24 カ月以内 : 1 件	持続可能な原料及び廃棄物に限定されていたことを確認	適合

参考資料 2 : プロジェクトのインパクト一覧³

#	プロジェクトカテゴリーの領域	プロジェクトカテゴリー	プロジェクト数	グリーンインパクト : CO ₂ 排出削減量の合計 (t-CO ₂ /年)	グリーンインパクトのうち SMBC に帰属するもの (t-CO ₂ /年) ⁴	発電容量 (MW)	カテゴリー内の全プロジェクトの KPI がレポートングクライテリアに適合
1	再生可能エネルギー	太陽光	4	72,696	34,370	113.56	適合
2	再生可能エネルギー	風力	4	570,928	100,917	515.60	適合
3	再生可能エネルギー	バイオマス	1	298,370	113,870	75.00	適合

³ 推定される年間グリーンインパクト (CO₂ 排出削減量) は、三井住友銀行 (SMBC) の情報と国際エネルギー機関 (IEA) 及び資源エネルギー庁のデータを使用して日本総合研究所 (JRI) が算出。

⁴ 各プロジェクトにおける SMBC の出資比率に基づいて算出。

免責事項

© Sustainalytics 2020 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステナリティクスの意見を反映しています。サステナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

サステイナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステイナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。変化し続ける世界の投資家のニーズに応えるため、25年以上にわたって最前線で、高品質で革新的なソリューションを開発してきました。現在、サステイナリティクスは、ESG 及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる世界の数百の主要な資産運用会社や年金基金と取引しています。また、サステイナリティクスは、数百の企業やその金融仲介機関に対し、方針、実務及び投資計画においてサステイナビリティを考慮するサポートを提供しています。サステイナリティクスは、世界各地に 16 のオフィスを展開し、650 人以上のスタッフ（その内の 200 人以上は 40 以上の業種に関する多様な専門知識を有するアナリスト）を擁しています。詳しくは、www.sustainalytics.com をご参照ください。

